

報道各位

新潟市新津美術館

企画展

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった
開催について（お知らせ）

新潟市新津美術館では、企画展「new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった」を開催いたします。多くの方々にご観覧いただきたく、取材・広報にご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 展覧会名 new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった
- 2 会 期 令和7年3月25日（火）～6月8日（日）
- 3 会 場 新潟市新津美術館
- 4 観 覧 料 一般 1,100円、他
- 5 そ の 他 詳細は別紙プレスリリース参照
- 6 問合せ先 新潟市新津美術館

展覧会担当：大野、奥村

広 報 担 当：山岸、大野

〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1

TEL. 0250-25-1300

FAX. 0250-25-1303

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった



《new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す》より
2023年／写真：池田晶紀
作品すべて©Arai Ryoji

絵本作家、荒井良二の作品世界を旅するような展覧会 代表作の絵本原画や新作インスタレーション等約450点を展示

展覧会名 new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった

会期 2025年3月25日（火）～6月8日（日）

会場 新潟市新津美術館

概要 国内外で高い評価を受けるアーティスト、荒井良二（1956-）。彼の幅広い活動は、絵本だけでなく、絵画、音楽、舞台美術にまでおよびます。本展では、絵画や絵本原画、イラストレーション、新作の立体インスタレーションや愛蔵の小物たちを通して、荒井良二の「いままで」と「これから」をご紹介します。展示空間の特徴を活かした会場構成は作家自身がおこない、全国を旅する展覧会は会場ごとに新たな表情を見せます。

まさに旅をする時のように、先が見えない不安や恐れをも楽しみに変えてしまうような気持ちで活動の幅を広げてきた荒井良二。彼はこれまでどんなところを旅して、次はどこへ出かけていくのでしょうか。ここからまた新しい荒井良二が誕生 = new bornする展覧会を、ぜひご体感ください。



休館日	月曜日（ただし4月28日、5月5日、6月2日は開館）
開館時間	午前10時～午後5時（観覧券販売は午後4時30分まで）
主催	新潟市新津美術館、UX新潟テレビ21、朝日新聞社
共催	新潟日報社
協力	偕成社、積水ハウス、宮本武典
観覧料	当日券 一般1,100円（900円） 大学・高校生900円（700円） 中学生以下無料 ※（ ）内は有料20名以上の団体料金 ※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料（手帳をご提示ください） ※2度目はオトク！リピーター割引 （本展半券の提示で、本展2度目の観覧が団体料金） ※2館見るとオトク！あっちも割 （新潟市美術館の企画展観覧券を持参の方は団体料金）* ※新潟県立植物園および新潟市新津鉄道資料館の入館券を持参の方は団体料金* *1枚につき1回限り1年間有効
前売券	一般のみ900円 販売期間：2月22日（土）～3月24日（月） 取扱先：セブン-イレブン（セブンコード：108-996）、デイリーヤマザキ新津駅前店、 インフォメーションセンターえん（メディアシップ1F）、シネ・ウインド、 アソビュー！、新潟市新津美術館 ※NIC新潟日報販売店でもお取り寄せできます。

荒井良二 ARAI RYOJI



写真提供：積水ハウス株式会社

1956年山形県生まれ。

『たいようオルガン』でJBBY賞を、『あさになつたのでまどをあけますよ』で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつき』で日本絵本賞大賞を受賞するほか、2005年にはアジアで初めてアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得る。

2012年、NHK連続テレビ小説「純と愛」のオープニングイラストを担当。ライブペインティングやワークショップのほか、作詞・作曲やギターの演奏など音楽活動も行っている。2018年まで「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」の芸術監督を務め、さらにその活動の幅を広げている。

新潟市では、2007年に「荒井良二 スキマの国の美術館」（新潟市新津美術館）を開催。公立の美術館での初めての個展となった。2015年「水と土の芸術祭」のこどもプロジェクトの一環として、ワークショップ「『カタガタ、マキマキ』～旅の絵巻ものがたり～大きなロールキャンバスに物語を描こう」を開催。

絵本や書籍原画の細部までじっくりと

おもわず口ずさみたくなるようなリズムカルな文体やオノマトペ、あたたかく鮮やかな色彩、描けそうで描けない独特の線やかたち、そして心にふっと灯りがともるような読後感。荒井さんの絵本や書籍は、一言では言い尽くせない魅力であふれています。

本展では、100冊以上の絵本や書籍のなかから、『あさになったのでまどをあけますよ』をはじめとした、代表的な作品の原画をご紹介します。画面のなかに小さく描かれた人々の様子や、印刷では表現しきれない絵の具の輝きなど、文字のない原画だからこそじっくりと向き合っ、その魅力を発見してください。



左：『あさになったのでまどをあけますよ』原画（表紙）2011年 偕成社

右：『きょうのぼくはどこまでだってはしれるよ』原画（p28-29）2019年 NHK出版

新作絵画や立体作品による会場構成

2010年、「越える」を意味する「meta（メタ）」をタイトルに用いて、絵画やドローイングを収めた初作品集『meta めた』（フォイル）を刊行した荒井さん。絵本作家として語られる自らを超越する、新たな活動をはじめました。各地での作品展示に加え、郷里の山形を舞台とした展覧会「荒井良二の山形じゃあにい」、「みちのおく芸術祭 山形ビエンナーレ」の芸術監督、震災後の東北をめぐる活動など、場所やジャンルを超えた創作の旅を続けています。本展では、新作絵画に加えて、大分県の公園に設置されたオブジェ《マッテルモン》《たいようをすいこむモン》のマケットや、「みちのおく芸術祭 山形ビエンナーレ2018」で発表された《山のヨーナ》の立体物、当館限定の描き下ろし作品も紹介します。展示空間の特徴を活かした会場構成は荒井さん自身がおこない、展示室全体を使って創作の現在地を伝えます。



左：《誰も知らない山の神さまちゃん》2018年

中：《山のヨーナ》より 2018年／写真：池田晶紀

右：《流れ星スパーク奏でよギター》2022年

旅する新作インスタレーション

展示の最後では、新作の立体インスタレーション《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》を発表します。本作は、2010年に制作した絵画《逃げる子供Ⅰ》をもとに制作されました。絵画に描かれた、幸せに向かって逃げるこどもたちは乗り物のような家となり、それぞれに物語を内包しながら旅をしていきます。家の素材や、電球やスケッチなど細部の設え、形から読み取れるこどもたちの物語を想像しながら、会場をゆっくり巡ってみてください。



左：《逃げる子供Ⅰ》2010年

右：《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》より 2023年／写真：池田晶紀

協力：宮本武典、積水ハウス株式会社

※本作は、積水ハウスのゼロエミッションの一環として、同社から提供された材料で制作されました。

「#にいがた春の絵本まつり」キャンペーン開催！

2025年春、新潟県内の3つの美術館で絵本に関する展覧会を開催します。会場で撮影した写真やグッズの写真を、ハッシュタグ「#にいがた春の絵本まつり」をつけてX（旧Twitter）に投稿した方のなかから、抽選で展覧会グッズなどをプレゼント！詳細は、UX新潟テレビ21や各美術館のwebサイトをご確認ください。

[対象の展覧会]

● **new born 荒井良二 いつも しらないところへ たびするきぶんだった**

3月25日（火）～6月8日（日）／新潟市新津美術館

● **津和野町立安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校**

4月12日（土）～6月1日（日）／新潟県立近代美術館

● **junaida展「IMAGINARIUM」**

4月19日（土）～6月22日（日）／新潟県立万代島美術館

[実施期間]

2025年3月25日（火）～6月22日（日）

[詳細URL]

<https://www.uxtv.jp/event/niigata-ehon/>



本展会場内は
全作品撮影OK！

お知らせ

新潟市新津美術館は、本展会期終了後から2026年3月（予定）まで、改修工事のため休館します。本展は、長期休館前の最後の展覧会です。ぜひお見逃しなく。

関連イベント

■「荒井良二と物語を汲み出す人」

荒井さんと一緒に「物語をつくる」プログラムです。インスタレーション《new born 旅する名前のない家たちをぼくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す》をモチーフに、参加者全員で物語文を編んでいきます。

講師：荒井良二、宮本武典（キュレーター、東京藝術大学准教授）

日時：5月3日（土・祝）午後2時～6時

会場：新津美術館レクチャールーム

定員：20名（参加無料、応募者多数の場合は抽選）

申込：当館webサイトで詳細をご確認のうえ、4月19日（土）までにメールでお申込みください。

■荒井良二×宮本武典 クロストーク

これまでたくさんの展覧会やプロジェクトをともに手掛けてきた荒井さんと宮本さんに、本展の魅力や展覧会に対する思いなどをうかがいます。

講師：荒井良二、宮本武典

日時：5月4日（日・祝）午後1時30分～3時

会場：新津美術館レクチャールーム

定員：50名

申込不要、参加無料、託児有り

■絵本のよみきかせ

当館ボランティアスタッフが、荒井さんの絵本のよみきかせをおこないます。

日時：6月1日（日）①午前11時～②午後2時～（各回30分程度）

会場：展示室

申込不要、要当日観覧券

■担当学芸員によるギャラリートーク

日時：4月6日（日）、5月17日（土）各回午後2時～（30分程度）

会場：展示室

申込不要、要当日観覧券、託児有り

新津美術館のやさしいサービス

●月曜開館

4月28日、5月5日、6月2日

●こどもタイム

親子で会話を楽しみながら鑑賞できます。

会期中の第1・第3の木曜・日曜 午前10時～午後1時

●託児サービス（無料）

専門スタッフがお子様をお預かりします（要事前申込、定員3名、先着順）。

・鑑賞のための託児サービス

会期中の第2・第4の木曜・土曜 午前10時～正午

・イベント参加のための託児サービス

4月6日（日）、5月17日（土）各日午後1時30分～3時／5月4日（日・祝）午後1時～3時30分

交通案内

●JRをご利用の場合

古津駅から徒歩約25分、矢代田駅から徒歩約35分。

新津駅からタクシーで約15分、矢代田駅からタクシーで約5分。

●お車をご利用の場合

新潟方面から国道49号線経由、国道403号線を加茂・新津方面へ（新潟駅から約20km、約45分）。

磐越自動車道、福島・会津若松方面から新津ICより約20分。

または新潟方面から「新津西スマートIC」より約15分。

●バスをご利用の場合

JR新津駅東口バス停から、秋葉区バス「新津駅西口行」に乗車約25分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ。

もしくは新潟交通バス「矢代田経由白根・潟東行」に乗車約15分、「新津美術館入口」で下車、徒歩5分。

JR矢代田駅バス停から、秋葉区バス「新津駅東口行」に乗車約10分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ。

もしくは新潟交通バス「新津駅行」に乗車約5分、「新津美術館入口」で下車、徒歩5分。



詳細はこちら↑

広報用画像 & 読者プレゼント用招待券申込み

新潟市新津美術館 E-mail : museum.ni@city.niigata.lg.jp FAX : 0250-25-1303

本展覧会の作品画像データをご希望の方は、必要事項をご記入の上、新潟市新津美術館までFAX またはメールでお申込みください。

※お手数ではありますが、基本情報確認のため、必ず校正をお寄せください。

※掲載誌が発行されましたら、**1部ご恵与ください。**

※読者プレゼント用招待券は原則、画像掲載での展覧会紹介1件につき、5組10名様分にてご提供致します。プレゼントの受付、発送は貴社にてご対応ください。

貴社名

メディア・部署：

ご担当者名：

〒

ご住所

TEL：

E-mail：

読者プレゼント用招待券

枚 希望 ※希望の場合のみ

希望画像データ（番号をご記入ください）

※画像は本展覧会の広報用として、会期終了までの使用に限らせていただきます。

※必ず以下のとおり、キャプションとクレジットを併記してください。

※トリミングおよび文字載せはご遠慮ください。

※この他の作品画像も一部提供可能です。ご希望の場合はお申し出ください。

01



03



04



02



05



06



07



01, 02.

《new born 旅する名前のない家たちを ぼくたちは古いバケツを持って追いかけて 湧く水を汲み出す》より 2023年 ©Arai Ryoji / 写真：池田晶紀

03. 『あさになったのでまどをあけますよ』原画（表紙）2011年 偕成社©Arai Ryoji

04. 『きょうはそらにまるいつき』原画（表紙）2016年 偕成社©Arai Ryoji

05. 《花の草》2008年©Arai Ryoji

06. 《流れ星スパーク奏でよギター》2022年©Arai Ryoji

07. 《名前の知らないわたしと誰かが聞いている》2023年©Arai Ryoji



〈Full. 降る、積み重なった首のページをめくってみる〉2024年 ©Arai Ryoji

2025.3.25 TUE — 6.8 SUN

開館時間：午前10時〜午後5時（券売は午後4時30分まで）／休館日：月曜日（4月28日、5月5日、6月2日は開館）／当日券：一般1100円（900円）、大学・高校生900円（700円）、中学生以下無料（〜内は有料20名以上の団体料金／障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料（手帳をご提示ください））／2度目はオトク！リピーター割引（本展半券の提示で、本展2度目の観覧が団体料金）／2館見るとオトク！あっちも割（新潟市美術館の企画展観覧券を持参の方は団体料金）＊／新潟県立植物園および新潟市新津鉄道資料館の入館券を持参の方は団体料金＊／＊印の割引は、1枚につき1回限り1年間有効／主催：新潟市新津美術館、UX新潟テレビ21、朝日新聞社／共催：新潟日報社／協力：偕成社、積水ハウス、宮本武典

新潟市新津美術館

NEW

new born 荒井良二

いつも じないところへ たびするきぶんだった

new born 荒井良二

荒井良二（1956—）は、2005年に日本人として初めてアストリッド・リンドグリーン記念文学賞を受賞するなど、国内外で高い評価を受けるアーティストです。彼の幅広い活動は、絵本だけでなく、絵画、音楽、舞台美術にまでおよびます。当館では、2007年に個展「荒井良二 スキマの国の美術館」を開催し、多くの人々を魅了しました。本展では、絵画や絵本原画、イラストレーション、新作のインスタレーションや愛蔵の小物たちを通して、荒井良二の「いままで」と「これから」をご紹介します。展示空間の特徴を活かした会場構成は作家自身がおこない、全国を旅する本展覧会は会場ごとに新たな表情を見せます。まさに旅をする時のように、先が見えない不安や恐れをも楽しみに変えてしまうような気持ちで活動の幅を広げてきた荒井良二。彼はこれまでどんどころを旅して、次はどこへ出かけていくのでしょうか。ここからまた新しい荒井良二が誕生＝new bornする展覧会を、ぜひご体感ください。



写真：山本真平



『こどもたちは遊んでいる』原画（p.16-17）2020年単行本『旅』作品集©Arai Ryoji



『花の年』2008年

『あざになったのでまどをあげますよ』原画（表紙）2011年『あざになったのでまどをあげますよ』



『げんしんく』2014年

『new born 旅する名前のない家たちをばくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す』より 2023年 / 写真：池田品節

いつもしらすといとこころへたびするまぶんだった

荒井良二 ARAI RYOJI

1956年山形県生まれ。『たいようオルガン』でJBBY賞を、『あざになったのでまどをあげますよ』で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつき』で日本絵本賞大賞を受賞するほか、2005年にはアジアで初めてアストリッド・リンドグリーン記念文学賞を受賞するなど国内外で高い評価を得る。2012年NHK連続テレビ小説『純と愛』のオープニングイラストを担当。ライブペインティングやワークショップのほか、作詞・作曲やギターも演奏するなど音楽活動もおこなっている。2018年まで「みちのおくの芸術祭山形ピエンナーレ」の芸術監督を務め、さらにその活動の幅を広げている。

前売券：一般のみ900円

前売券販売期間：2月22日（土）～3月24日（月）／前売券取扱所：セブン-イレブン（セブンコード：108-996）、デリリーヤマザキ新津駅前店、インフォメーションセンターえん（メディアシップ1F）、シネ・ウインド、アソビュー！、新潟市新津美術館 ※NIC新潟日報販売店でもお取り寄せ可能

関連イベント



●「荒井良二と物語を汲み出す人」

荒井さんと一緒に「物語をつくる」プログラムです。インスタレーション『new born 旅する名前のない家たちをばくたちは古いバケツを持って追いかけて湧く水を汲み出す』をモチーフに、参加者全員で物語文を編んでいきます。／講師：荒井良二、宮本武典（キュレーター、東京藝術大学准教授）／日時：5月3日（土・祝）午後2時～6時／会場：新津美術館レクチャールーム／定員：20名（参加無料、応募者多数の場合は抽選）／申込：当館Webサイトで詳細をご確認のうえ、4月19日（土）までにメールでお申込みください。

●荒井良二×宮本武典 クロストーク

これまでたくさん展覧会やプロジェクトをともに手掛けてきた荒井さんと宮本さんに、本展の魅力や展覧会に対する思いなどをうかがいます。／講師：荒井良二、宮本武典／日時：5月4日（日・祝）午後1時30分～3時／会場：新津美術館レクチャールーム／定員：50名／申込不要、参加無料／託児有り

●絵本のよみきかせ

当館ボランティアスタッフが、荒井さんの絵本のよみきかせをおこないます。／日時：6月1日（日）①午前11時～②午後2時～（各回30分程度）／会場：展示室／申込不要、要当日観覧券

●担当学芸員によるギャラリートーク

日時：4月6日（日）、5月17日（土）各回午後2時～（30分程度）／会場：展示室／申込不要、要当日観覧券／託児有り

●こどもタイム

会場に音楽が流れるので、親子で会話を楽しみながら鑑賞できます。／第1・3木曜・日曜 午前10時～午後1時

●託児サービス（無料）

生後6か月から未就学児までのお子様を、専門スタッフがお預かりします。利用の3日前までに電話（0250-25-1300）でお申込みください（定員3名、先着順）。／鑑賞のための託児サービス：第2・4木曜・土曜 午前10時～12時／イベント参加のための託児サービス：4月6日（日）、5月17日（土）各日午後1時30分～3時、5月4日（日・祝）午後1時～3時30分

●月曜開館日 4月28日、5月5日、6月2日

●津和野町立安野光雅美術館コレクション 安野先生のふしぎな学校

新潟県立近代美術館／4月12日（土）～6月1日（日）

●junaida展「IMAGINARIUM」

新潟県立万代島美術館／4月19日（土）～6月22日（日）

「#にいがた春の絵本まつり」SNS投稿キャンペーン開催！詳しくは、各美術館およびUX新潟テレビ21のWEBサイトをご確認ください。

■交通のご案内

- JR：古津駅から徒歩約25分／矢代田駅から徒歩約35分、もしくはタクシー約5分／新潟駅からタクシー約15分
- お車：新潟方面から、国道49号線を国道403号線加茂・新津方面へ（新潟駅から約20km、約45分）／磐越自動車道・新津ICから約20分、新津西スマートICから約15分（新津西スマートICは会津若松方面の出入りはできません）／無料駐車場有（250台）、新潟県立植物園無料駐車場も利用可能
- バス：JR新津駅東口バス停から、秋葉区バス「新津駅西口行」に乗車約25分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ、もしくは新潟交通バス（平日のみ）「矢代田経由白根・湯東行」に乗車約15分、「新津美術館入口」で下車、徒歩約5分／JR矢代田駅前バス停から、秋葉区バス「新津駅東口行」に乗車約10分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ、もしくは新潟交通バス（平日のみ）「新津駅行」に乗車約5分、「新津美術館入口」で下車、徒歩約5分



新潟市新津美術館
〒956-0846 新潟県新潟市
秋葉区蒲ヶ沢109番地1
（花と遊跡のふるさと公園内、
新潟県立植物園となり）
TEL. 0250-25-1300

[Facebook・X(旧Twitter)・Instagram]
@niitsuartmuseum

美術館WEB 展覧会公式サイト



新潟美術館のサービス

同時開催

2025.3.25 TUE — 6.8 SUN — 新潟市新潟美術館

